

ベトナムから初めて技能実習生を受け入れ

平成16年から外国人技能実習共同受入事業を行ってきた山梨県アパレル工業組合(辻洋一理事長)では、本年度、初めてベトナムからの技能実習生を受け入れた。

ベトナムからの第1期生となる今回は、ベトナム・ハノイ市からの技能実習生5名が来日、組合員企業2社が受け入れた。



実習生

11月5日の開講式に引き続き、11月12日に行われた講習では、中央会の中込雅専務理事が講師となり、

山梨県の概要、地場産業、中央会、中小企業、ベトナムと日本の文化の違い等について、技能実習生と質疑応答・対話などを交えながら、終始和やかな雰囲気で行われた。また、技能実習生はトイレの洗浄便座なども知り、早速日本の生活様式の違いにも驚いていた。

技能実習生は、これからスタートする日本での生活に対して、「早く日本に慣れて縫製技術を学び頑張りたい」と抱負を語った。

近年、ベトナム人技能実習生のニーズが高まってきており、毎年、日本に来る人数が増えている。

同組合の理事で山梨県外国人実習生受入組合連絡協議会の川手正紀会長は、「今までは中国人技能実習生を受け入れてきたが、経済情勢や意識の変化等で中国からの受け入れが難しくなってきた。ベトナム人技能実習生は、現地ですっかりと事前研修を



講師の中込専務と実習生

受けてきており、ある程度日本語も話せるので、今後ベトナムからの受入が増えてくるのではないかと語った。

中央会では、今後増えていくことが予想されるベトナム人技能実習生の受け入れについて対応していくために、ベトナム大使館との交流会、ベトナム送出し機関との意見交換会等を開催し、ベトナム人技能実習生の受け入れが適正に円滑に行えるような支援を行っていく。